

日本システム監査人協会報

当協会のマーク決まる

当協会のマークを会報等を通じて広く募集していたが、締切日である7月末日迄に、4名の方々より6点の作品が寄せられた。

この応募作品の中から、理事会にて厳正に審査した結果、当選作1点が選ばれた。当選者には、記念品として図書券が贈られた。また、応募者全員に記念品が贈られた。

当選 中尾 宏氏（ビジョン㈱、会員登録番号#76）

この他、会田三雄氏（センチュリリサーチセンター㈱、#158）、梅津尚夫氏（ライオン㈱、

#74）、藤田哲郎氏（東海パルプ㈱、#135）より応募があった（五十音順）。



応募していただいた方々に、この紙面を借りて、厚く御礼申し上げます。

第3回会員研究会開催さる



第3回会員研究会が、7月22日（金）、虎ノ門琴平会館2階のサンワ・等松青木監査法人会議室に、約40名の参加者を集めて開催された。セコム株式会社広報室長の加藤善次郎氏より、「コンピュータネットワークの現況と今後の展開」というテーマでご講演いただいた。コンピュータのご担当ではないということであったが、実に興味深い話であった。

<講演内容>

セキュリティ事業を手掛けるセコム株式会社

の現況は、資本金150億円、売上高860億円、経常利益160億円、税引後利益77億円、従業員はグループ42社で14千名である。

セコム（SECOM）という社名は、SEcurityとCOMmunicationを合わせた造語で、セコムのコンセプトである「Peace of mind（心の安全）」を提供するためのキーワードとして使われている。

昭和37年の創業時に、業種選定の条件として

- ・誰もやっていない仕事（すぐ第一人者）
- ・努力すれば企業規模が拡大でき、社会に貢献できる（存在意義）
- ・前金取引ができる業種（財政体質）

という3項目を掲げ、それに合致した日本初の警備会社としてスタートした。費用対効果が高く、かつ高品質なサービスで、東京オリンピックの警備を契機に急成長を遂げた。昭和40年、常駐警備が事業として目処がたつと、次に、

「人間でなければならないところだけ人間にやらせて、残りの部分は他の方法に置換えられる」という考えで、現在のセキュリティネットワークの原型であるマンマシン融合のSPアラームを開発した。契約件数を増やし、スケールメリットを得て次々とネットワークを拡張し、現在の機械警備（セントラライズドシステム）は、契約数が18万8千端末、そこからリアルに情報を受けるコンピュータ基地が327、そして24時間体制でセキュリティサービスを行うコントロールセンターが18、そこから指令を受けてガードマンを派遣するサービスステーションが733という規模である。そして、最も進んだセンサー等を導入し、かつ財務的に良質な償却資産を持つために、センサー等はレンタル方式に

している。新しい機器を使えば誤報が減るので、ランニングコスト（人件費）が減る。米国には、機器を契約先に売却してしまっただけに、170万件もの契約先がありながら赤字の会社もある。

また、異常情報を伝えるための専用線は、24時間中23時間59分が空きである。そこで、社内の経営管理情報をのせることにより電話代を浮かし、また運用マニュアルをホストから呼び出せるようにすることでサービスの品質を向上させた。最近では、VAN事業も始めた。

今後は、回線とコンピュータを結んだネットワークがだんだん家庭に入り込み、西暦2000年には50兆円産業になるであろう。セコムとしては、全ての家庭にセキュリティと様々な情報処理サービスを提供していきたい。

関西支部の活動状況

関西支部の最近の活動状況は、次の通りである。

1. 第3回会合について

7月6日（水）、富士通関西システムラボラトリーで関西支部のメンバー46人中24人が参加して行われた。また、本部より川野会長が出席した。

研究発表については、関西支部副支部長白須広幸氏（富士通関西システムエンジニアリング）より、「システム監査事例ご紹介」と題して、コンピュータメーカーサイドのシステム設計におけるシステムの品質保証について、社内の対応策等のお話をして頂いた。その内容の概略は、次の通りである。

プロジェクト監査

富士通では、システム開発プロジェクトの大型化、複雑化により管理が困難になり、トラブルが発生することを予防するため「プロジェクト監査」の制度を設けている。

プロジェクト監査の対象

この制度は、以下の2つの事項の適切性の確保を目的として、経験15～20年の管理職

3～4名からなる「プロジェクト監査会」によって診断・評価・助言を行うものである。

① プロジェクト管理全般（契約・社内手続き、開発体制、スケジュール、システム・開発技術、管理技術）

② 進捗、品質、性能、規模並びにコスト問題への対応

プロジェクト診断ノート

プロジェクト監査には、プロジェクト診断ノートを使用するが、その項目は次の通りである。

① プロジェクト総括

- ・プロジェクトプロフィール
- ・管理指標
- ・リスク／問題点管理票
- ・システム概要図
- ・体制図
- ・スケジュール

② 工程別形式性診断

（注）形式性＝ドキュメントの作成・整備

- ・形式性診断集計ワークシート
- ・ドキュメント診断チェックリスト

③ 工程別作業項目診断

- ・作業項目診断集計評価ワークシート
- ・作業項目チェックリスト

品質管理について

工数の増大、工程の遅延等のプロジェクトの問題点は、品質保証が不十分なことに起因している。

提供する製品の品質への信頼を確保するための「品質保証標準」の構成は次の通りである。

- ① 品質保証項目……品質保証の焦点となる品質は何か。
- ② 品質保証作業項目……品質保証項目を満たすために、どんな作業が重要か。
- ③ ツール・技術標準類……品質保証作業項目の実施にあたり、どんなツール類、方法、技術標準類を活用するか。
- ④ 品質保証指標……品質保証の程度、及び品質保証作業の適切さを見るために必要な指標は何か。
- ⑤ 品質保証体系……生産・保守の過程に関与する組織（顧客、当社、ソフトウェアハウスなど）が品質保証上どんな役割を担い、どのような連携をとって品質保証を推進していくか。

2. 第4回会合について

9月10日（土）、大阪淀屋橋の中央経営コンサルティング協会会議室において、関西支部副支部長 田淵正信氏（田淵公認会計士事務所所長）より、「消費税とコンピュータの対応策」と題する発表の後、ディスカッションが行われた。

3. 関西支部の今後の活動について

(1) 会員相談コーナー

システムの企画・開発において考慮検討すべき法令や関連事項について、定例の会合で質疑検討を行い、会員個々の業務の円滑な推進に役立てる。

会合の出欠通知に相談欄を設け、案内時に同封し、提起された問題や相談は、次回の会合で話し合う。

(2) 大学へのアプローチ

システム監査の普及啓蒙活動の一環として、大学と提携して、講演会やセミナーを開催する。また、将来の課題として、「システム監査論」を大学の実務講座として開講することを検討してはどうか。講師は受け入れ側の要望により、会員より選ぶ。

内容を具体化した上で、アプローチするための文書を作成し、検討する。

(3) システム監査研究海外視察旅行

勤務先の負担で実施できるようなプランを具体化してみる。

(4) 支部運営基盤強化のためのセミナー等の実施

関西支部の財政基盤が脆弱であるため、支部会員でできるテーマを挙げて、有料でセミナーを開催して今後の活動資金とすることを検討中である。

(5) 「コンピュータ運用管理規程」の作成

税法、商法、その他の会計慣行、及びシステム監査基準に最低限マッチするためのガイダンスとして、「コンピュータ運用管理規程」をシステム監査人協会として社会に公表してはどうか。

システムの運用についての規程をまとめてみたいと燃えている人を募っている。

総会日程決まる

今年度の会員総会は、12月10日（土）午後1時半より、東京都港区の虎ノ門琴平会館にて開催される予定である。なお、当日は、総会のほか、記念シンポジウム、懇親会を予定している。詳細については、次回会報（10月発行予定）にて連絡する。

(注) 会場は、第4回会員研究会と同じ（4頁の地図参照）。

会長ら通産省、JIPDECを訪問

この度、通産省及び日本情報処理開発協会(JIPDEC)に人事異動があり、情報処理振興課長に林良造氏、JIPDEC専務理事に照山正夫氏が就任されました。9月8日、当協会川野会長、鈴木事務局長、長野理事、石島理事は、両氏を訪問し、協会の活動への支援を要請しました。

新入会員名簿

昭和63年7月9日～9月8日入会者 8名
(五十音順)(氏名の*は準会員を示す)

氏名	勤務先	登録番号
秋月 雅也	日本電気ソフトウェア	213
川西 功嗣	近畿日本鉄道	218
川俣 勉	日本コンピュータセキュリティ	217
高林 武雄	界計算センター	211
棚井 秀美	相模無線製作所	212
東本 謙治	松下電器産業	214
守屋昭一郎	ジュイティソフトサービス	216
安尾 勝彦	松下電器産業	215

昭和63年9月8日現在

正会員 199名 準会員19名 合計 218名

[訂正] 会報第3号記載の7月8日現在の正会員数は、191名の誤りでした。

第4回会員研究会

日時：昭和63年9月22日(木)
午後6時30分より8時30分まで
会場：サンワ・等松青木監査法人会議室
(虎ノ門琴平会館2階)

※ 80名が余裕をもって座れる広い会場です。ぜひご出席下さい。

テーマ：被監査部門から見たシステム監査の課題～外部システム監査を受けて

講師：日本ユニシス株式会社

事務管理部企画課課長

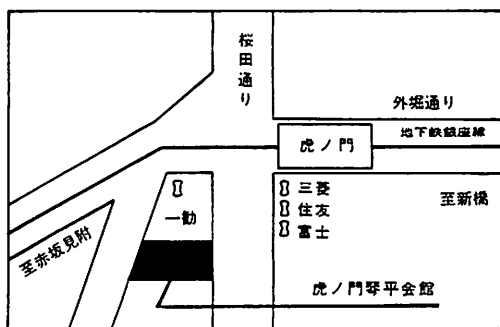
黒熊 雄治氏(当協会理事)

会費：会員1,000円(正会員、準会員とも)
非会員2,000円

※会費は、当日会場にてお支払ください。

申込方法：FAXまたは郵便にて、事務局まで。

会場のご案内：銀座線虎ノ門駅下車徒歩2分



事務局からのお知らせ

<住所変更等について>

住所変更、所属変更等がございましたら、事務局へ書面でお知らせください。

<会費振込のお願い>

本年度(昭和62年12月12日～昭和63年12月31日)の会費(正会員10,000円 準会員8,000円)を未納の方は、下記宛に早急にお振込みください。

郵便振替口座	東京 1-352357
加入者名	日本システム監査人協会事務局
銀行振込口座	第一勧業銀行 北沢支店
	普通 1053488
口座人名	日本システム監査人協会 事務局 鈴木信夫

発行所 日本システム監査人協会

発行人 川野 佳範

事務局

〒157 東京都世田谷区砧1-10-11

NHK放送研修センター内 鈴木 信夫

TEL.03(415)7111(内41) FAX.03(415)1388

※ご連絡はなるべく郵便またはFAXをお願いします。

会報担当(ご投稿、ご意見、ご要望は下記まで)

長野 正己 東京海上火災保険㈱企画三課

TEL.0425(76)1556 FAX.0425(73)3497

石島 隆 錦オービックビジネスコンサルタント

TEL.03(342)1881 FAX.03(342)1874

村上 正気 錦精工舎 情報システム部

TEL.03(623)8111 FAX.03(624)6534